

たかさご 吉祥がいっぱい!高砂人形

引間 隆文

3月と言えばひな祭り。当館のミニ展示「ひなまつり」にも大勢の方にご来館いただいています。また、当館では3月26日から市制施行70周年記念事業として収蔵品展「祝う・寿(ことほ)ぐーきつとすの吉祥文様一」を開催します。吉祥文様とは、祝意をあらわすのに用いる縁起の良い文様のことです。本展では当館が所蔵するおめでたい意匠の品々を多数展示します。そこで今回の「今月の一品」は、ひな祭りと収蔵品展にちなんで、吉祥の人形・高砂人形をご紹介します。



高砂人形

かつてのひな祭りでは、市松人形や舞踊人形など様々な人形をひな人形と共に飾ることがありました。高砂人形もその一つです。女の子のお祭りであるひな祭りに老夫婦の人形を飾るなんて、よくよく考えると不思議な感じもしますが、高砂人形は吉祥がいっぱいのおめでたい人形なのです。

高砂人形は、能の『高砂』を題材とした人形です。「高砂やこの浦舟に帆をあげて」と結婚式でもよく謡われていたように、数ある能の作品の中でも代表的な作品です。

阿蘇の神官が、旅の途中に松の木陰を掃除する老夫婦と出会います。実はこの老夫婦は松の精で、やがて小舟に乗って沖へと消えていきます。神官が後を追うと、住吉明神が現れて舞を舞い祝福するという大変おめでたい話です。

高砂人形の老夫婦（松の精）は、長寿と夫婦円満を象徴しており、手に持つ熊手には「福を集める」、ほうきには「災禍を払う」という意味があるとされます。また、「おまえ百までわしゃ九十九まで」と言われるように、ほうきは「掃く」から「百」と、熊手は「九十九まで(じゅうくまで)」とかけているとも言われています。

老夫婦の人形のみの場合もありますが、写真の人形には、松、梅、鶴、亀も配置されています。これらは、全て吉祥の意匠です。松と梅は竹と共に「歳寒三友」と呼ばれており、古くから寒さに耐える姿が愛され、吉祥の植物として尊ばれてきました。また、鶴と亀は「鶴は千年、亀は万年」と言われるように長寿の象徴とされてきました。

高砂人形は大変おめでたい人形であることから、結納品や結婚、敬老のお祝いの品として贈られることも多々ありました。また、高砂の図柄は、正月に飾る掛軸や七五三の千歳飴の袋などでも見かけます。

今も昔も、暮らしの中には吉祥のデザインがあふれています。3月26日からの収蔵品展「祝う・寿ぐ」では、そんな吉祥の品々が大集合します。先人たちが吉祥文様に込めた思いを感じてみませんか。

(民具No.2202-1、No.2056)